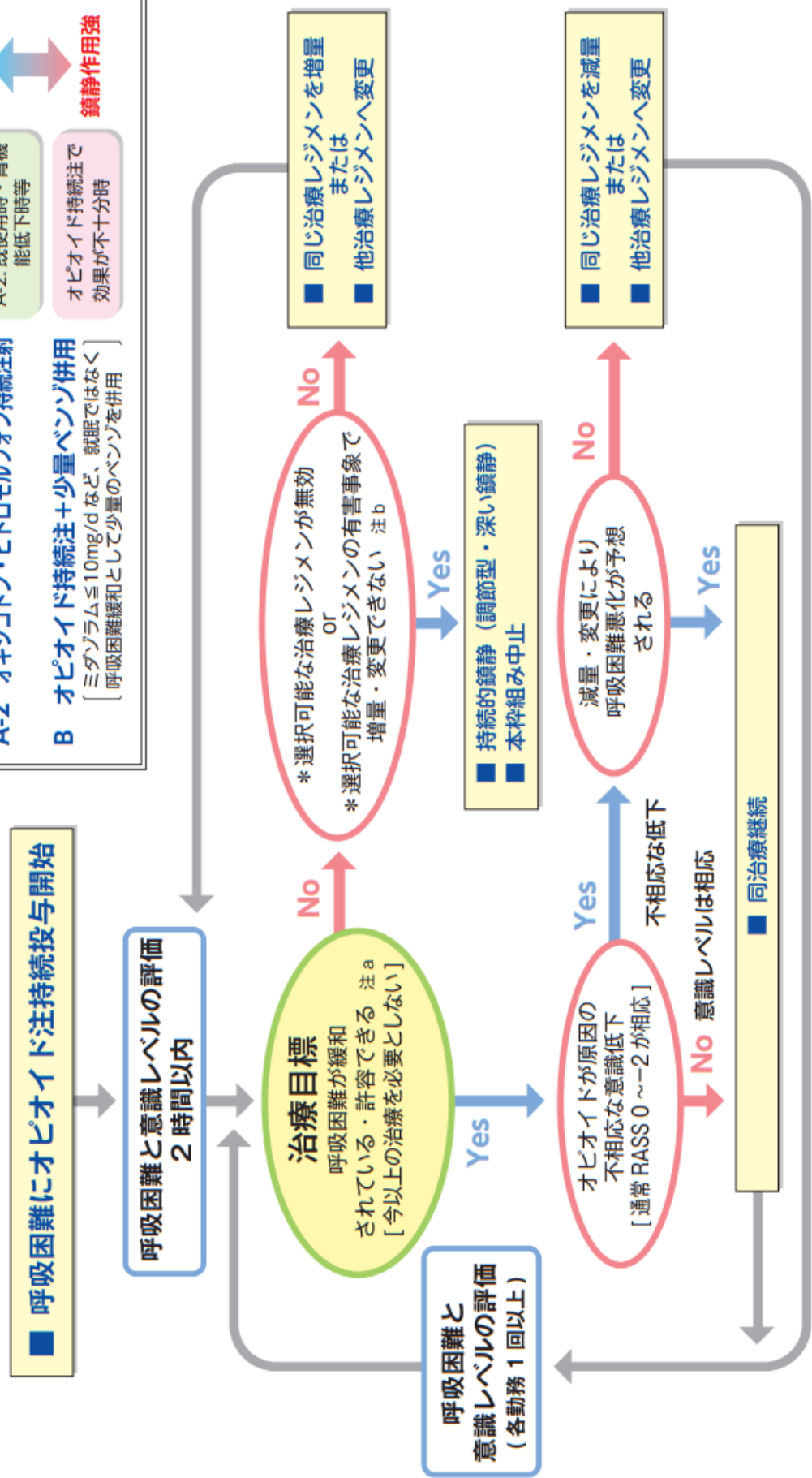


# 呼吸困難に対するオピオイド注射薬 持続投与治療の枠組み

2019年12月版

<b>【治療レジメン】</b>	<b>【適応】</b>	<b>【特徴】</b>
<b>A-1 モルヒネ持続注射</b>	A-1: 既使用時・呼吸困難が強い時・腎機能正常時等	<b>鎮静作用強</b> <b>鎮静作用弱</b>
<b>A-2 オキシコドン・ヒドロモルフォン持続注射</b>	A-2: 既使用時・腎機能低下時等	
<b>B オピオイド持続注+少量ベンゾ併用</b> 〔ミダゾラム≤10mg/d など、就眠ではなく呼吸困難緩和として少量のベンゾを併用〕	オピオイド持続注で効果が不十分時	



注 a : 許容できるとは、呼吸困難があっても患者 / 家族の価値観によって今以上の苦痛緩和を希望しない場合 (呼吸困難の緩和と薬剤の影響のバランスから増量を希望しない場合や、他の家族ともっと相談が必要な場合など) 他の家族と相談するなど  
 注 b : オピオイドによる眠気、呼吸数低下、活動性せん妄、ミオクローヌス、悪心 / 嘔吐などの副作用により、それ以上のオピオイド増量が困難  
 有害事象への治療 (オピオイド減量含む) は適宜行う